

創発 Mail Magazine

創発は“インキュベーション”のプロ集団。～問題解決のための新しい戦略・進化～

当メールマガジンは、日本総研/創発戦略センターの研究者と名刺交換させていただいた方に配信させていただいています。>> [登録解除はこちら](#)

当メールマガジンは、HTML形式で配信させていただいております。うまく表示されない方は>> [こちらからご覧ください](#)

| [日本総研/創発戦略センター](#) | [役員紹介](#) | [セミナー・イベント](#) | [書籍](#) | [掲載情報](#) |



創発戦略センター
所長
[井熊均](#)

IKUMA Message

・・・ from 創発戦略センター所長 井熊均

世代を超える絆

決勝トーナメントを前に日本のワールドカップが終わりました。ワールドカップに連続して出場できるようになって、日本のサッカーのレベルは確実に上がりましたが、世界のレベルも上っていました。決勝トーナメントに勝ち上がったチームのゴールは、神技とも思えるようなシュートばかりです。こうしたシュートを演出できるのは、世界の一流チームで中心となって活躍し、祖国に戻れば絶対エースと言われる選手達です。日本とコートジボワールとの試合では、ドログバ選手が出場するとチームのポテンシャルが一気に上がりました。アルゼンチン対イラン戦では、引き分けかと思われた時、メッシ選手が正に神技と言えるスーパーシュートでアルゼンチンを勝利に導きました。日本チームが決勝トーナメントの常連となるためには、こうした各国の絶対エースと戦える強みをつくらないといけません。

試合後、日本選手は次のワールドカップに向けた決意を力強く語りました。彼らの奮起を心から応援したいと思います。それと同時に期待したいのは、今回のワールドカップをみて悔しさを胸にしたであろう高校生、中学生の選手の成長です。優勝候補とされるドイツやブラジルの強さも一世代や二世代で築かれたものではありません。ナショナルチームの強さは、選抜チームに憧れて練習を重ね、自らも選手となり活躍する、という世代の継承の結実なのです。その意味で、日本は今回の敗戦に臆することはありません。Jリーグ発足以来20年間で築き上げられた世代をつなぐ絆があるからです。感動、憧れ、悔しさが継承されていくことで、世界の一流チームで活躍する選手はますます増えていくでしょう。いずれ日本にも世界を熱狂させる絶対エースが出てくるに違いありません。世代を超える絆が感動の勝利につながることを信じて4年後を待ちたいと思います。

■ 書籍 >> [各書籍情報はこちら](#)

- 「自動運転」が拓く巨大市場2020年本格化するスマートモビリティビジネスの行方」日刊工業新聞社
- 「2020年、電力大再編 電力改革で変貌する巨大市場」日刊工業新聞社
- 「性能限界」(日刊工業新聞社)
- 「電力不足時代の企業のエネルギー戦略」(中央経済社)
- 「図解 グローバル農業ビジネス」(日刊工業新聞社)
- 「次世代エネルギーの最終戦略 使う側から変える未来」(東洋経済新報社)
- 「なぜ、日本の水ビジネスは世界で勝てないのか」(日刊工業新聞社)

「中国環境都市 中国の環境産業戦略とエコシティビジネス」(日刊工業新聞社)
「図解 次世代農業ビジネス—逆境をチャンスに変える新たな農業モデル」(日刊工業新聞社)
「甦る農業 ～セミプレミアム農産物と流通改革が農業を救う～」(学陽書房)
「グリーン・ニューディールで始まるインフラ大転換」(日刊工業新聞社)
「図解 企業のための環境問題 Ver.3」(東洋経済新報社)
「自治体再生 資産リストラで財政破綻を回避せよ」(学陽書房)
「よくわかる最新バイオ燃料の基本と仕組み」(秀和システム)
「ポスト京都時代のエネルギーシステム 分散型電源と再生可能エネルギー」(北星堂書店)
「だから日本の新エネルギーはうまくいかない!」(日刊工業新聞社)
「中国エネルギービジネス」(日刊工業新聞社)
「プロフェッショナル・サラリーマン」(水曜社)
「図解でわかる 京都議定書で加速されるエネルギービジネス」(日刊工業新聞社)
「実践的事業者評価による自治体の調達革命」(ぎょうせい)
「図解よくわかるバイオエネルギー」(日刊工業新聞社、編著)
「燃料電池ビジネスの本命“住宅市場”を狙え!」(日刊工業新聞社、編著)
「プロジェクトマネジメントの考え方 進め方」(オーエス出版社)

■ [Ikuma Message](#) バックナンバー



創発戦略センター
ESGアナリスト
[林 寿和](#)

創発eyes

・・・ 研究員による創発最前線

日本版スチュワードシップコード、成功の鍵はアセットオーナーが握る

6月10日、金融庁は日本版スチュワードシップコードの受け入れを表明した機関投資家のリストを公表した。同コードは、企業との対話を通じて持続的な経営を促すために、機関投資家に取り組みを求めるものである。今回、同コードの策定から、わずか3カ月で127の機関投資家が受け入れを表明したことが明らかとなった。年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)など大手公的年金も受け入れを表明している。

しかし、年金基金をはじめとするアセットオーナーが公表した同コードへの対応方針を見ると、「運用受託機関に対して、スチュワード責任を果たすよう適切な取り組みを求める」といった内容が多く、資産保有者の立場からどのような取り組みを運用受託機関に求めているのか、必ずしも具体的に提示されていない。

アセットオーナーによる取り組みが重要である理由の一つは、同コードが「Principle-Based Approach(原則主義)」と「Comply or Explain(実施するか、実施しない場合にはその理由を説明するか)」と呼ばれる仕組みを採用している点にある。こうした仕組みは、個々の実態に即した創意工夫を引き出すことを狙ったものであるが、正しく機能するためには、取り組みの内容は、あるいは取り組まない場合の理由説明が、しっかりと外部からモニタリングされ、評価されることが不可欠である。アセットオーナーが運用受託機関に対して、投資運用において考慮すべきことを具体的に提示し、個々の運用受託機関に取り組みを促すことがなければ、運用受託機関側が同コードに前向きに取り組むことの経済合理性が薄れてしまう。仮に取り組まない場合の説明責任も、さほど求められないのであればなおさらである。

アセットオーナーが、投資先の企業経営に関して具体的な考え方を示すことについて、「多様な受益者の代理人である年金基金が、特定の価値観や考え方に依って立つのは適切ではない」という指摘もあるが、個別の論点について問われた場合、例えば、投資先企業が労働環境や労働安全にも配慮した企業経営を行うことの必要性や、あるいは気候変動により今後想定される悪影響も考慮した企業経営を行うことの必要性について問われた場合、必ずしも意見が二分するとは限らないだろう。日本のモデルとなった英国では、スチュワードシップコードの策定を受けて、投資運用において考慮すべきことを具体的に提示しているアセットオーナーは少なくない。

日本版スチュワードシップコードは、策定からまだ3カ月程度しか経過しておらず、現時点では受け入れについて検討中というところも多いと考えられる。今

後、同コードの趣旨に賛同して取り組みを前進させるアセットオーナーが現れることを期待すると同時に、我々自身も、加入している企業年金や、あるいは国民年金が同コードにどのように対応しているのか、対応しようとしているのかを一度確認してみるところから、受益者の一人として考えていくことが重要だと考える。



創発戦略センター
マネジャー
[岡元 真希子](#)

研究員エッセイ

伊豆稲取のつるし雛

少し前のことになりますが、5月の連休に、伊豆稲取に旅行に行きました。ご存知の方なら「桃の節句ではなく端午の節句に？」と思われるかもしれません。

静岡県東伊豆町稲取地区は、福岡県柳川市、山形県酒田市と並んで、お雛様のつるし飾りで知られる町です。

ちりめんで作った、桃、ほおずき、猿、兎、鞠、金目鯛、唐辛子、俵ねずみなどの小さな飾りを110個作り、紐1本につき11個、この紐を5本かけた輪を、左右で1対にして雛人形の横あるいは雛人形の代わりに飾るそうです。飾りには、「不苦勞のフクロウ」「難が去るのサル」「娘に悪い虫がつかないように、トウガラシ」など正月のお節料理のように縁起を担いだいわれがあります。

さて、伊豆稲取の駅から、曲がりくねった坂道を歩いて、製作体験をできる教室にたどりつきました。

器用な人であれば本を読んだり、動画を見たりすることで、作り方を習得できるのですが、折り紙の本も、編み物の手引書も途中で投げ出してしまいうぐらい立体的な平面図が苦手な私はわざわざこのために、電車を乗り継いで伊豆まで来たのです。

教室の先客は2人。手取り足取り教えてくださる先生が3人。ほぼマンツーマンでのレッスンです。短時間でできて、でも基礎的なスキルが身につく飾りを選んで縫い始めました。同じ飾りの作りかけがたくさん入った箱があり「手順1まで終わったもの」、「手順2まで終わったもの」、「綿を詰めすぎた例」、「綿が足りない例」などを例に、丁寧な手ほどきを受けました。

手順通り作っていくので大きな間違いはないのですが、完成形を十分理解しないまま縫っていくのはやはり落とし穴があります。縫い代5ミリで縫うところを、4ミリで縫ってしまうと、1ミリ大きなものが完成してしまい、部品と部品をつなげるときに大きさが合わなくなってしまうのです。しかし先生は、臨機応変な対応の仕方まで教えてくださり、どうにか完成しました。

伊豆稲取のつるし飾り祭りの中心は3月ですが、雛人形とそろいになる女の子の健やかな成長を祈る飾りはおそらく一年中飾られているものもありそうです。それに加えて、五月人形とともに、こいのぼりや兜など、男の子の成長を祈る飾りもつるされていて、なんだか得した気分でした。

来年の桃の節句まで8カ月あまり、110個は無理ですが、少しずつ縫いたためていくのを楽しみにしています。

編集後記

7月になると、梅雨明けしてなくても「夏」という感じがします。

これから海や山へお出かけの計画をされている方も、多いのではないのでしょうか。

夏のレジャーは危険も多いので、お気を付けて夏を満喫なさって

株式会社日本総合研究所 創発戦略センター Mail Magazine (隔週火曜配信)

このメールは創発戦略センターメールマガジンにご登録いただいた方、シンポジウム・セミナーなどにご参加いただきました方、また研究員と名刺交換した方に配信させていただいております。

【発行】株式会社日本総合研究所 創発戦略センター

【編集】株式会社日本総合研究所 創発戦略センター編集部

ください。

※記事は執筆者の個人的見解であり、
日本総研の公式見解を示すものではありません。

〒141-0022 東京都品川区東五反田2丁目18番1号
大崎フォレストビルディング

TEL：03-6833-6400 FAX：03-6833-9479

<配信中止・配信先変更・配信形式変更>

<http://www.jri.co.jp/company/business/incubation/mailmagazine/>

Copyright © 2014, The Japan Research Institute, Limited.